

第3章

都市づくりのビジョン

第3章 都市づくりのビジョン

1. 将来都市像

本市では「大網白里市第6次総合計画」の基本構想において、目指すべきまちの姿として「将来像」を掲げ、それに基づくまちづくりの基本目標を定めています。

本計画における将来都市像は、総合計画で示された最上位の将来像「未来にむけてみんなでつくろう！ 住みたい・住み続けたいまち」を踏襲するものです。

総合計画と将来像を共有することで、都市づくりに関わる各分野との連携や整合性を図り、市全体として一貫性のあるまちづくりの推進を目指します。

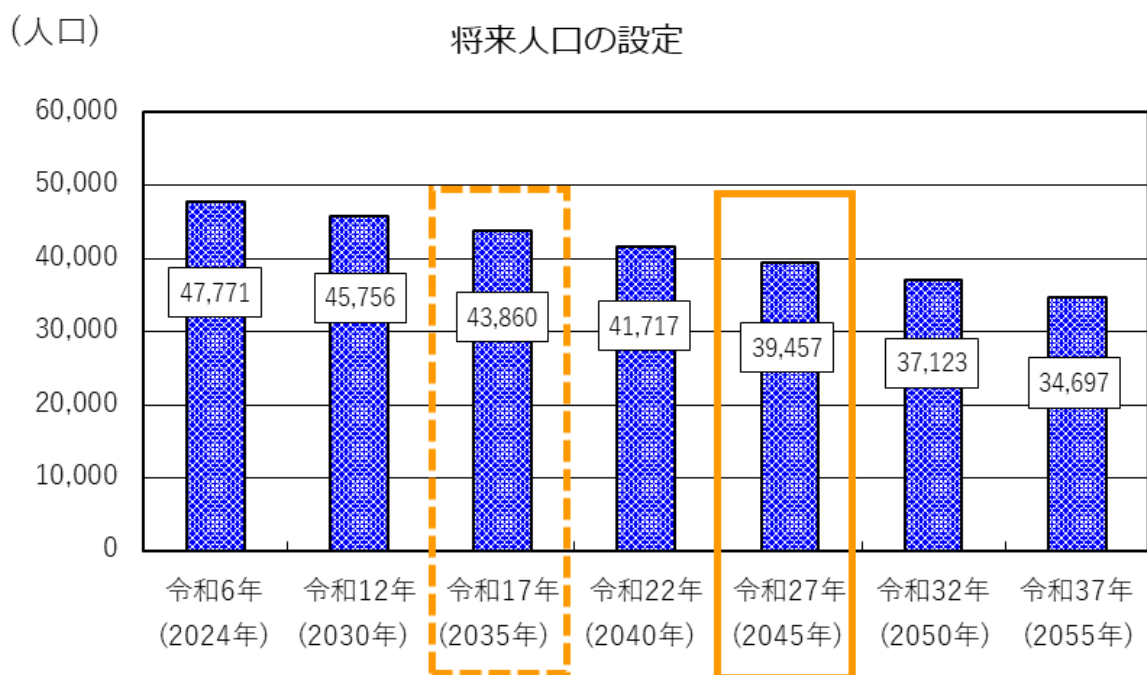
■ 将来都市像

**未来に向けて みんなでつくろう！
住みたい・住み続けたいまち**

2. 将来人口の設定

本市の将来人口は、大網白里市人口ビジョンの将来人口の推計値をもとに、令和17年（2035年）で「43,860人」、令和27年（2045年）で「39,457人」を目標とします。

大網白里市人口ビジョンでは、令和12年（2030年）における人口が「45,000人」を維持していることを目標としており、若い世代が市外へ流出するなどの社会動態を改善することにより、令和17年（2035年）で「43,860人」、令和27年（2045年）で「39,457人」を目指すとしています。



3. 都市づくりの目標

将来都市像を実現するために、都市づくりの目標を以下のとおり定めます。

目標① 未来に向けた持続可能な都市の実現（市街地環境・都市基盤・交通・産業）

➤ 地域産業の振興

農林水産業や商業など、地域における既存産業の振興を図り、持続可能な経済基盤を強化します。

➤ 雇用創出と都市の活性化

新たな商業施設や産業の誘致を通じて、働く場を確保し、地域経済の活力と市街地のにぎわいを創出します。

➤ 交通基盤の整備と公共交通の充実

道路網の計画的整備と公共交通の利便性向上を図り、誰もが快適に移動できる都市環境を構築します。

➤ 広域交通ネットワークの活用

高速道路や鉄道など、広域交通網の利便性を最大限に生かし、地域の振興や観光の活性化につながるまちづくりを推進します。

目標② 地域の特性を生かした魅力ある都市の形成（自然環境・歴史・文化・観光）

➤ 自然環境・田園環境の保全

地域の貴重な自然や田園風景を積極的に保全し、将来世代に引き継ぐ環境づくりを推進します。

➤ 歴史・文化資源の活用

先人が築き上げてきた歴史や文化を地域の財産として活用し、魅力にあふれる都市づくりを目指します。

➤ 観光振興の促進と交流人口の拡大

自然環境を活かした観光資源の整備・活用を促進し、観光施設の立地を通じて交流人口の創出と地域経済の活性化を図ります。

目標③ 災害に強く、安全、安心に暮らせる都市の構築（防災・減災）

➤ **自然災害への対応強化**

地震や風水害など、激甚化・頻発化する自然災害への備えとして、防災・減災対策を計画的に進めます。

➤ **建築物の耐震化・不燃化の推進**

住宅や公共施設などの耐震化・不燃化を促進し、災害時の被害軽減と市民の安全確保を図ります。

➤ **ライフラインの強靱化**

電気・ガス・上下水道など、都市機能を支えるライフラインの耐久性を高め、災害時にも機能を維持できる体制を整備します。

➤ **地域と連携した防災体制の強化**

市民・地域・行政が一体となり、防災・減災活動や訓練を通じて、災害に強い地域社会の形成を目指します。

目標④ 誰もが快適に暮らせる住みよい都市の実現（住環境・福祉・景観）

➤ **生活基盤の整備・更新**

道路、公園、下水道などの、生活インフラの計画的な整備・更新を進め、安全で快適な日常生活を支えます。

➤ **子育て・医療・福祉の充実**

子育て環境の整備、医療・福祉サービスの充実を図り、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進します。

➤ **自然と共生するまちづくり**

里山や田園風景など、身近な自然を大切にし、四季を感じられるまちづくりを進めます。

➤ **良好な景観と落ち着いた街並みの形成**

地域の特色を生かした景観形成と、落ち着きのある美しい街並みの整備を促進します。

➤ **地域コミュニティの活性化**

地域のつながりや人と人との絆を大切にし、誰もが支え合いながら暮らせる温かい地域社会の形成を目指します。

4. 将来都市構造

(1) 将来都市構造の基本構成

本市の都市構造は、地域の特性に基づく「ゾーン」、都市施設や地域資源など市の重要な都市機能を担う「拠点」、ゾーンや拠点を連携させる「交流軸」によって構成し、持続可能で活力ある都市づくりを進めていきます。

ゾーンは、都市機能や自然環境に応じて、次の5つの区域に分類します。

住宅市街地ゾーン	生活に必要な都市機能を配置し、良好な居住環境を形成する区域
田園都市ゾーン	農業や風景を重視し、都市と農村の調和を図る区域
海浜交流ゾーン	海岸の環境を保全し、海岸資源を活用して交流や観光の拠点となる区域
森林環境共生ゾーン	森林などの優れた自然環境を保全し、憩いの魅力向上を図る区域
将来市街地ゾーン	将来的な市街地形成を見据え、都市機能を集積し、生活圏としての利便性を高める区域

拠点は、市内で重要な機能を担う、次の6つの拠点（エリア）に分類します。

中心拠点	都市の中心として、商業・業務などの主要な機能が集まり、都市活動の核となる拠点
地域拠点	地域ごとの生活を支える、日常的な利便性を提供する拠点
観光交流拠点	地域の観光資源を生かし、観光客の訪問や交流を促進する拠点
スポーツ交流拠点	スポーツを通じ、多世代の健康づくりと市内外の交流を促進する拠点
沿道活用拠点（エリア）	広域道路網を活用し、沿道立地の特性を生かした土地利用を誘導するエリア
産業導入拠点	交通利便性や地域資源を生かし、産業の集積や企業活動を促進する拠点

交流軸は、都市間や地域間をつなぐ重要な軸となる、次の2つの軸で構成します。

広域交流軸	近隣都市との連携を強化し、広域的な交流や物流の効率化を図る軸
地域交流軸	地域間を連携し、都市内における交流や移動を促進する軸

(2) 将来都市構造の考え方

①ゾーン

市街地形成ゾーン

市街化区域（白里地区は一部）を「市街地形成ゾーン」と位置付けます。

このゾーンは、住宅や商業などの都市機能が集積しており、今後も健全な市街地の形成を図るため、都市基盤の整備を推進し、人口の定着と産業の活性化を促進します。また、調和のとれた都市景観の誘導や公園の整備などにより、魅力的な都市空間の形成を目指すとともに市民生活の利便性や安全性の向上に努めます。

田園都市ゾーン

市街地形成ゾーンの周囲を「田園都市ゾーン」と位置づけます。

このゾーンは、自然環境との共生を踏まえて農業振興に取り組むとともに、良好な田園空間を形成するゆとりある居住空間づくりを進めます。また、農業の魅力を生かした交流を促進し、地域の活力向上を図ります。

海浜交流ゾーン

白里地区の市街化区域の海側を「海浜交流ゾーン」に位置づけます。

このゾーンは、本市のシンボルの一つである白里海岸を保全・活用するための環境保全や漁業の振興を図るとともに、観光交流拠点における休憩・にぎわい空間やイベントなどを充実することで市民や来訪者の交流を促進します。

森林環境共生ゾーン

市西部の丘陵地を「森林環境共生ゾーン」と位置づけます。

このゾーンは、森林などの自然環境の保全に努めるとともに、「小中池公園」などを中心に市民や来訪者が豊かな自然の中で親しむことができる空間の創造を促進し、憩いの場としても魅力向上を目指します。

将来市街地ゾーン

大網駅周辺（北・南）を「将来市街地ゾーン」と位置づけます。

このゾーンは、市の玄関口にふさわしい都市機能が集積する中心拠点の形成を目指し、計画的な市街地整備によるまちづくりを推進します。

②拠点

中心拠点

大網駅周辺を「中心拠点」に位置づけます。

中心拠点は、JR外房線とJR東金線の結節点に位置し、公共交通の要所として、地域拠点を結ぶ交流軸と連携しながら、市民はもとより市外からの交流人口を受入れる市の玄関口として、商業・業務施設や生活利便施設などの立地を誘導しながら、市の顔となる拠点機能の強化を推進します。

地域拠点

永田駅周辺、増穂地区、白里地区を「地域拠点」に位置づけます。

地域拠点は、それぞれの地域に応じた住民サービスを維持しながら、より機能的で安全・安心な地域づくりを推進します。

観光交流拠点

小中池公園と白里海岸を「観光交流拠点」に位置づけます。

観光交流拠点は、環境学習、野鳥観察、レクリエーション、マリンスポーツ、海水浴などで、市民と来訪者が活発に交流できるように各拠点の魅力向上を図るとともに、イベントなどを通じて連携を強化していきます。

スポーツ交流拠点

大網白里アリーナをはじめとした増穂地域に集積するスポーツ施設を「スポーツ交流拠点」に位置づけます。

市民の健康づくりや生涯スポーツの推進を図るとともに、各種大会やイベント、日常利用を通じて市内外の多様な人々が集い、地域のにぎわいや活力の創出につながる拠点を目指します。

沿道活用拠点（エリア）

国道128号沿道を「沿道活用拠点」に位置づけます。

国道128号沿道は、広域的な交通と連携を促進する「広域交流軸」として、沿道立地型の商業・業務機能の土地利用を促進します。

産業導入拠点

圏央道大網白里SIC周辺、みどりが丘の業務地区、白里地区臨海部の一部を「産業導入拠点」に位置づけます。

産業導入拠点は、市内でも立地条件や地域資源に恵まれていることから、産業の活性化を先導的に図るため企業立地を推進します。

③交流軸

広域交流軸

圏央道、国道128号、主要地方道千葉大網線、同山田台大網白里線バイパスを周辺都市との連携強化と広域的な交流を生み出す「広域交流軸」に位置づけます。

近隣の都市とのつながりを持つ広域的な交通ネットワークの形成に努めます。

地域交流軸

主要地方道山田台大網白里線、市道01-013号線（通称：10メートル道路）を市の骨格となる「地域交流軸」に位置づけます。

東西に延びる幹線道路を軸として、地域間の連携・強化を図るとともに、公共交通の有機的なネットワークの形成を推進し、中心拠点と地域拠点との交流を促進することで市内における生活サービスの維持・向上を図ります。